

## 1985年核データ研究会準備会第1回会合議事録

日 時： 昭和60年3月22日（金），13：30～17：00

場 所： 原研本部第5会議室

出席者： 梶山，大竹，松延，吉田，松浦，水本，浅見，菊池，中川，五十嵐

### 配布資料

1. 核データ研究会の過去のプログラムリスト
2. タイムスケジュール表

### 1. 経過報告（五十嵐）

運営委員会で昨年と同じメンバーで準備会を構成すること，研究会の日程を11月12，13，14日の3日間にする事，中国核データセンター所長Cai Dunjiu（蔡敦九）氏にアドバイザーを依頼し，承諾を得たことなどの報告があった。

### 2. 研究会の主テーマについて

配布資料1により過去の研究会で取りあげられたテーマを参照しながら今回の主テーマについて意見を出し合った。

主な議論を記す。

#### (i) 原子炉解体に関する話題：

放射線量の計算値と測定値の間に大きな差がある。しかし，まだまとまっていない。

#### (ii) 稠密格子炉及び非分離共鳴の問題：

今年のテーマとしては間に合わない。

#### (iii) 荷電粒子反応：

中性子入射反応の逆反応として必要になってきている。東北大学の測定などテーマにする可能性がある。

#### (iv) JUPITER 関係：

adjustmentの仕事がまとまりつつある。

#### (v) Damage 関係：

メカニカルなつながりを整理した話が聞きたい。

14 MeV 中性子に関係した話なら東南アジアの人にも興味があるのではない  
か。

(vi) Delayed Neutron Spectra :

最近個々の precursor についての測定が多く出ている。これらを合成したデ  
ータがどうなるのか興味がある。

中国側でまとめられないか。

(vii)  $\bar{\nu}$ ,  $\chi$  の問題 :

JENDL-3 で採用する値は九大の方法で得た値にする予定。 $\bar{\nu}$  については中  
国のデータもあるのではないか。

(viii) 絶対測定の現状を知りたい。電総研でやっている話など standard との関係  
をまとめられないか。相対測定との関係を見るのも興味がある。

(ix) シグマ委員会のワーキンググループ活動を紹介するのも良い。

これらの議論を基に以下のテーマを採りあげることにした。

(1) 絶対測定と相対測定の関係 — standard data,  $\bar{\nu}$ ,  $\chi$  の問題を含む。測  
定上の問題点を取りあげる。

(2) シグマ委員会ワーキンググループ活動の紹介 — 中間報告, 将来展望, アジア  
での活動を含む。

(3) 核融合炉への核データの応用 JENDL-3 PR1 の応用

(4) トピックス

(i) Delayed Neutron Spectra

(ii) 最近の核反応理論及び模型

(5) ポスターセッション

測定施設の紹介

### 3. スケジュール

- First circular を3月中に発送する。
- 次回運営委員会前にある程度まとまったプログラムを作り提案する。
- 次回会合を4月11日に東海研で開き, プログラム枠及び講演者候補への交渉  
担当者などを決める。
- 外国からの講演申し込みの切りを7月下旬とする。
- プログラムの最終案を8月中旬に決める。
- 9月上旬に出欠を調査する。

- 国内へのアナウンスは7月中旬，学会誌及び核データニュースへの掲載を予定する。

次 回 4月11日 東海研